

令和3年度

学校法人 ILP 学園 ILP お茶の水医療福祉専門学校

事業報告書

1. 学校の教育目標

『学校法人 I L P 学園』の「ILP」とは I Love People の意味で、人々を愛し愛されることを基本方針として、豊かな人間性を涵養するとともに、医療福祉の礎を築く専門的知識と技能を備えた有能な人材を育成し、以って 21 世紀の福祉社会に貢献することを目的とする。

2. 重点的に取り組むことが必要な目標や計画

教育目標に則り、次の二つの分野の目標を柱に学生支援を行う。

【教育】

- ◆医療・福祉に係わる資格の取得を目標として“全員受験・全員合格・全員就職”をモットーとする。
- ◆現在取り組んでいる学科ごとの各種資格取得目標を、更に明確にし、学生に自覚させ合格率を 100%とする。

- ※福祉→・国家資格である「社会福祉士」「精神保健福祉士」「保育士」の取得
 - ・本校は社会福祉主事養成指定校の為、卒業時に「社会福祉主事任用資格」の資格を付与している。
- ※医療→・日本病院会認定資格である「診療情報管理士」の取得。
 - ・診療報酬請求事務能力認定試験を最終目標とし、医療事務職で即戦力となる必要な資格やスキルの取得。

【就職】

- ◆医療福祉への業界就職率 100%を維持する。
 - ・信頼される医療・福祉のスペシャリストになるにふさわしい人間性を体得するため、その前提となる挨拶運動の励行等を通じ、コミュニケーション能力の向上に努めている。また教養演習の科目(クラス担任による授業)を通じて、「基礎学力の向上及び自分を理解すること」「相手の立場を理解し行動できる」人材の育成に努めている。

<教育理念・目標>

- 理念・目標について、本校の大きな柱である「全員受験・全員合格・全員就職」をロビーに掲げ、本年度もほぼ目標を達成できた。また、これらの周知徹底については、入学式翌日のオリエンテーション、学期初めのオリエンテーション（進級生）、各科担任等による「教養演習」、「キャリア教育」の講義において、目標等がぶれないよう指導の強化を行なった。
- 「瞬間は習慣で決まる」という言葉通り、日々の習慣を大切にさせた。
- 医療福祉で必要とされる最先端の知識と技術を、学生一人ひとりが着実に身に着けることを目的に、新型コロナウイルスの影響で実習先の受け入れに苦戦したものの、現場体験のできる学内外における実践的な取り組みを行なった。
- 保護者向けに令和3年5月に学校通信 Vol.6 を発行し発送を行った。

<学校運営>

- 運営や諸事業の社会的説明責任を果たし、公正かつ透明性の高い運営を実現し、職員による自律的な運営と教育研究の質の向上に資することを目的として、積極的な情報公開に努めた。また円滑な運営のため、朝礼終礼全体会議等を通し情報を共有し、学生管理、職員の動向等の情報も共有し運営した。
- コンプライアンスを法令遵守のみならず、本校の社会的責任や倫理も踏まえた幅広い概念と捉えており、職員一人ひとりが高い倫理観と使命感のもと日々の業務に力を注いでいる。
- 業務の効率化に関しては、従来の業務の流れや発送文書等、随時見直しを行ないながら改良に努め、より正確、迅速な業務遂行に繋がった。
- 例年、医療・福祉業界、専門学校の動向や社会情勢に対応すべく、様々な研修会に積極的に参加している。令和3年度は新型コロナウイルスの影響でオンラインによる開催が多かった。詳細は以下の通り。
 - 令和3年6月 第48回 医事課・診療情報管理士・医師事務作業補助
福岡県 糟屋・筑豊地区勉強会（オンライン）
 - 令和3年6月 令和3年度日本学生支援機構奨学金業務連絡協議会（オンデマンド）
 - 令和3年6月 日本社会福祉学会九州地域部会第62回研究大会（オンライン）
 - 令和3年9月 第47回日本診療情報管理学会 学術大会（オンデマンド）
 - 令和3年9月 第49回 医事課・診療情報管理士・医師事務作業補助
福岡県 糟屋・筑豊地区勉強会（オンライン）
 - 令和3年10月 令和3年度日本学生支援機構奨学金業務研修会（オンデマンド）
 - 令和3年11月 福岡県人権・同和教育研修会（オンライン）
 - 令和3年12月 福岡県立大学 令和3年度第1回リカレントセミナー（対面）
 - 令和4年1月 日本診療情報管理学会主催

診療情報管理に関する大学・専門学校とのセミナー（オンライン）

- ・令和4年2月 第50回 医事課・診療情報管理士・医師事務作業補助
福岡県 糟屋・筑豊地区勉強会（オンライン）
- ・令和4年2月 福岡県立大学 令和3年度第2回リカレントセミナー（オンライン）

<教育活動>

- 防止の緊急事態宣言発令時や自然災害（台風等）警報時に対応することが出来た。
- キャリア教育・職業教育に関しては、医療機関・福祉施設という明確な就職先に向け、実績を積み重ねている。キャリア教育授業は平成30年度より実施しており、令和3年度は各学科1年生前期合同で行った。また、令和3年度は日帰りで行った。また、令和3年度は日帰りで新入生合宿を行い、マナー研修等を行なった。今後も外部からの評価や、より専門的な講師の派遣などを通じ、さらなるレベルアップを図っていく。
- 関係省庁により教員資格要件が認定されているため、十分なレベルの教職員を確保できているが、より一層のスキルアップを目指し、教職員の外部研修の受講や国家資格取得を奨励している。
- 授業アンケートについては、前年度より様式変更を行ない、学生からのコメントやそれを受けた講師からの返答ももらえるようになった。両者からのフィードバックを集約できるようになり、有意義なものとなっている。
- 例年、職員および非常勤講師からなる①診療情報管理学科会、②福祉学科会、③医事学科会を前期・後期2回実施しているが、令和3年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の為、前期のみ開催した。今後の業界の動向を見据えた盤石なカリキュラムの編成、教育内容の検討、資格取得、学生指導における情報の共有化を図るため、各講師と情報交換を随時行なっている。

《各学科より》

- ※診療情報管理科… がん登録実務初級者試験や診療情報管理士認定試験合格に向けて、各講師との連絡や情報共有を行い、「わからない」を無くし、前向きに勉強ができる環境作りを行った。
- ※医療秘書科… 医療秘書技能検定や診療報酬請求事務能力認定試験に向け、過去問題を分析しつつ、各分野の強化を行った。夏休み期間に行う、診療報酬対策講座は、緊急事態宣言延長に伴い実施することが出来なかったが、前倒し授業や、個別指導を適宜行った。
- ※福祉総合学科… 卒業生を対象とした社会福祉士及び精神保健福祉士国家資格対策では、新型コロナウイルス拡大に伴う緊急事態宣言の発令等に

より、10月からの開催となった。そのため、空き教室を自習室として開放したり、遠方の卒業生には資料を郵送するなど個別に対応しサポートを行っている。

在校生に対しては、新型コロナウイルスの影響による実習の延期・中止に迅速に対応し、全ての学生が現場での実習を行えるよう調整した。

<学修成果>

- 就職試験、面接指導等、就職に向けての指導を十分に行った。
- 卒業生相互の交流の他、在校生との交流も図るべく同窓会を形成している。今後さらに発展させ、教育活動への改善や、就職活動への活用を図っていく。全学科の卒業生に積極的に参加してもらえよう、各担任から卒業生への案内を行なっている。平成30年2月17日に第一回同窓会を開催し、懐かしい同窓生と相互間の交流が図られた。
- 第二回同窓会開催については、新型コロナウイルスの影響により時期を見合わせているが、今後の状況を勘案し、役員会を開催し、日程等を検討していく予定。

<学生支援>

- 昨今の経済的事情を鑑み、様々な本校独自奨学金、学費サポート、分割納入制度等を整備した。
- 令和2年4月から開始した「高等教育の修学支援新制度」（授業料等減免・給付型奨学金）の対象校になったことにより、令和3年度は新生、在校生の24%の学生が対象となった。
- 就職活動については、クラス担任が中心となり指導・支援を行い、令和3年度も就職率100%を達成した。学生の遅刻や欠席に関しては、毎朝教員が校内でチェックする体制をとっていると同時に、今年度も新型コロナウイルスへの感染拡大防止対策として、学生の健康調査個人カードを毎朝提出させ、健康管理を行なった。授業態度等は毎日職員の間接会議において、報告・確認をし、全職員で情報共有をした。学生問題に関しては保護者とも連携し、退学を未然に防ぐ体制をとっている。その結果、本年も低い退学率を維持した。
- 学生の悩みや相談を心理面から支えるため、スクールカウンセラーによる「こころの相談室」を設け、支援体制をとっている。令和3年度は2回実施した。
- 成績・出席の状況について学校より保護者に連絡しており、特に状況が芳しくない学生の保護者に対しては詳しく説明をしている。また、優秀な学生に対しては進級生オリエンテーションの場（学年全員）で、チャレンジ制度表彰（表彰状と報奨金）をした。
- 本校は医療福祉専門学校という特性上、職員に看護師資格をもつ講師を配置し、不測の事態に備えている。

- 部活動等の課外活動に対しては、道具や練習場等必要に応じて支援している。
- 実習の際は、実習先への電話連絡だけでなく、直接訪問し、学生の情報交換や状況把握を行なっている。また、学生と話す時間も設けていただき、双方の情報収集をするよう心掛けている。

<教育環境>

- P.C やプロジェクター、T.V.など、教育機器に関しては整備できている。
- P.C のバージョンアップおよびウイルス対策は都度行い、マルウェア感染に備えている。
- 自転車通学希望者には、年度初めに対人・対物保険に加入しているか点検し、全員の加入を確認した。事故等の報告もない。
- 傘の盗難防止のため、雨天時は学生に傘用袋を配布し、各自教室内で管理するよう促し、紛失防止につなげている。
- 防災に関しては法令に基づき実施し、令和 3 年度も防災機器の安全点検と管理を行った。
- 令和 4 年 1 月 18 日、消防署立会いのもと監査を行った。
- オンライン授業の実施をスムーズに行なうべく対策チームを立ち上げており、緊急事態宣言下においても支障なくオンライン授業に取り組むことが出来た。

<学生の受入れ募集>

- 令和 3 年 6 月まで次年度に向けた学生募集活動を行っていたが、近年の 18 歳人口減少等をはじめとした社会状況の変化や若者の進路・進学先の多様化による入学者数減少等の状況を考慮した結果、令和 4 年 4 月入学生とそれ以降の学生募集を停止することとなった。
- 学納金は、教育内容、社会状況、学生及び保護者の負担感等を考慮して設定され、また本校の独自の奨学金制度も利用できるようになっている。また令和 2 年 4 月から「高等教育の修学支援新制度」の対象校となり、経済的に厳しい学生をより支援ができるようになった。

<財務>

- 毎月公認会計士事務所からの会計処理チェックを受けており、会計監査が適正に行われている。
- 少子高齢化対策として、外国人や社会人向けの介護職員初任者研修通信課程、夜間開校ハローワーク求職者支援訓練等を計画し、財務基盤の安定化を図っていきたい。
- ホームページにて、貸借対照表、収支計算書、財産目録、事業報告書、監査報告を公表している。厳しい財政状況の中、各課で経費削減案を出しあい、数値目標を掲げた。

- 厳しい財政状況の中、各課で経費削減案を出しあい、数値目標を掲げた。

<法令等の遵守>

- 学生の情報に関しては、特に細心の注意を図り、シュレッダー破棄や鍵付き文書ロッカー等を使用し、個人情報保護を徹底している。
- ホームページにて自己評価及び学校関係者評価報告書の情報公開を行なっている。さらに「高等教育の修学支援新制度」に伴う情報公開も行っている。
- 本年度も法令遵守には努めたが、今後職業実践専門課程の第三者評価をはじめ、大学と同等の評価義務が課せられる可能性や、また高等教育における、授業料免除や給付型奨学金の拡大など、教育に関する政策も刻々と変化している。これらに備えるためにも、問題点の整備・法令遵守、業務改善などが必須である。現在これらを踏まえ、更なる整備・改善に努めている。

<社会貢献・地域貢献>

- 都市中心部の良好な立地条件を活かし、医療福祉機関及び関係団体への教室貸し出し等を行っているが、令和 3 年度は新型コロナウイルスの影響により研修等を中止する団体が相次ぎ、貸し出しは 1 件もなかった。
- 福祉総合学科の学生を中心として、ボランティア活動に積極的に参加しているが、令和 3 年度は新型コロナウイルスの影響によりボランティア募集がほとんどなく、参加がなかった。
- 月に一度、障害者支援施設の利用者が手作りのクッキー販売に来校し、学生との交流も図られ、障害理解の促進につながっていたが、令和 3 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、販売を見合わせている。